



## 台日原住民族研究論壇 日台原住民族研究フォーラム

11<sup>th</sup> Taiwan-Japan Forum on Aboriginal Studies

文 | 陳昱菟 (政治大學原住民族研究中心專任助理)  
翻譯 | 石村明子 (專職中日文翻譯)  
圖 | 政治大學原住民族研究中心

文章 | 陳昱菟 (政治大学原住民族研究センター専任助理)  
翻訳 | 石村明子 (日中通訳翻訳者)  
写真 | 政治大学原住民族研究センター



第十一屆台日原住民族研究論壇與會貴賓大合照。  
第11回日台原住民族研究フォーラム参加者集合写真。

2018年9月5日，於政治大學研究創新暨育成總中心舉辦第十一屆的「台日原住民族研究論壇」。政大原民中心自2008年以來，持續邀請台日原住民族研究專家學者，今年繼續邀請日本研究台灣原住民族的研究團隊來台發表近期研究，台日雙方交流互動熱絡。

開幕式，台北市原住民族事務委員會陳誼誠主委，今年雖沒參與發表，但心繫台灣原住民族的發展與台日論壇的舉辦，當天蒞臨會場關心。日方代表橫濱國立大學笠原政治名譽教授致詞表示，像這樣珍貴的原住民族研究發表相當少見，應該只有台日論壇才有，非常感謝能參加這場盛會。監察院孫大川副院長今年擔任論壇的與談人來到現場，見到日方代表非常開心，也感謝這20年來雙方的合作與研究成果，期許雙方的交流研究能持續下去。

### 專題報告—原住民族事典

今年論壇首先請笠原政治名譽教授擔任專題報告的主持人，由政治大學林修澈名譽教授進行專題報告，討論如何透過民族事典

2018年9月5日に政治大学研究創新育成センターで第11回「日台原住民族研究フォーラム」が開催された。2008年より毎年原住民族に関わる日台の研究者を招いている政治大学原住民族研究センターでは、今年も日本の台湾原住民族研究者グループを招き、最近の研究についての発表や日台の交流を活発に行った。

開幕式には台北市原住民族事務委員会の陳誼誠主任委員が登壇し、今年は発表こそできなかったものの、心は台湾原住民族の発展と日台フォーラムと共にあり、フォーラムへの関心を抱いて参加した。日本側の代表として挨拶をした横浜国立大学の笠原政治名譽教授は、原住民研究発表のこのような場は大変貴重であり、日台フォーラム以外にこのような場はなく、参加できて大変有り難いと述べた。また、今年はコメンテーターとして参加した監察院の孫大川副院長は、日本の研究者の皆さんに会えて大変嬉しく、20年来の日台の協力と研究成果について感謝し、双方の交流と研究が今後も続くことを期待すると述べた。

### 基調報告—原住民族事典

今年のフォーラムの開始となる基調報告の座

的編纂，呈現各族文化歷史內涵，並完成原住民族知識體系的建構。並且藉此機會，向與會日本學者發出邀請，共同撰寫詞條。

### 場次一 國家進入民族

第一場次由日本國立靜岡大學森口恒一名譽教授擔任主持人，都留文科學部比較文化學科山本芳美教授擔任與談人，獨協大學國際教養學部松岡 格准教授及福岡大學人文學部宮岡真央子教授進行發表。兩位發表者分別以日本時代、民國時代兩個時間點切入，探討國家政策如何在原住民族社會運作及其影響。松岡 格教授透過「人名登記」等史料檔案，梳理出台灣原住民族如何在統治者的統治策略下「可視化」；宮岡真央子教授則以「生活改善（生活改進運動）」為出發點，探討台灣原住民族在歷經兩個政權的同化政策，其具體的共通性與差異性。

### 場次二 原住民族教育

第二場次「原住民族教育」，是每年論壇必備的主題。本場次主持人由東華大學民

長是笠原政治名譽教授に、講演を政治大学の林修澈名譽教授にそれぞれお願いし、民族事典の編纂を通じて、どのように各民族の歴史文化の内在的意義を表現し、原住民族の知識的体系を完成させるかを討論した。また、この機を借りて日本の研究者に共同での項目執筆をお願いした。

### 第一セッション 民族に進入する国家

第一セッションは国立静岡大学の森口常一名譽教授が座長を、都留文科大学文学部比較文化学部の山本芳美教授がコメンテーターをそれぞれ務め、獨協大学国際教養学部の松岡格准教授と福岡大学人文学部の宮岡真央子教授が発表を行った。2人の発表者はそれぞれ日本統治期、民国時代を切り口とし、国家政策が原住民族社会でいかに機能し、どう影響したかについて論考した。松岡格准教授は「人名登記」などの史料を用い、統治者の戦略において原住民族がいかに「可視化」されてきたかを整理した。宮岡真央子教授は「生活改善（生活改進運動）」を起点として、台湾原住民族が経験した2つの政権の同化政策について、具体的な共通点と相違点を考察した。



開幕式台日雙方代表與致詞貴賓（左起，日本橫濱國立大學笠原政治名譽教授、監察院孫大川副院長、政治大學林修澈名譽教授）。

開幕式での日台双方の代表挨拶（左から笠原政治横浜国立大学名誉教授、孫大川監察院副院長、林修澈政治大学名誉教授）。



開場次三：原住民族政策（左起，發言人台灣打里摺文化協會鄧相揚秘書長、發言人暨南大學通識教育中心簡史朗助理教授、發言人原民會鍾興華副主委、主持人醒吾科技大學蔡中涵榮譽教授、與談人加拿大渥太華大學社會學與人類學研究Scott Simon教授）。

第三セッション：原住民族政策（左から発表者の鄧相揚台灣打里摺文化協會秘書長、簡史朗暨南大學通識教育センター助理教授、鍾興華原住民族委員會副主任委員、座長の蔡中涵醒吾科技大學榮譽教授、コメンテーターのスコット・サイモンオタワ大学社会学人類学教授）



場次四：原住民族文化的傳承（左起，發言人台中教育大學區域與社會發展學系鄭安晞助理教授、發言人北海道大學愛努・先住民研究中心田本はる菜博士研究員、發言人台灣史前文化博物館陳俊男副研究員、主持人東華大學原住民族學院浦忠成院長、與談人台灣史前文化博物館林志興副館長）。

第四セッション：原住民族文化的傳承（左から発表者の鄭安晞台中教育大學区域與社會發展學科助理教授、田本はる菜北海道大学アイヌ・先住民研究センター博士研究員、陳俊男台湾史前文化博物館副研究員、座長の浦忠成東華大学原住民族学院長、コメンテーターの林志興台湾史前文化博物館副館長）

族語言與傳播學系童春發榮譽教授擔任，與談人原民會伊萬・納威副主委因有要事無法到場而派人代為宣讀。發表則由政治大學教育系博士候選人李俊葳，以「原住民族優先論」的角度來說明「原住民族教育法第25條」之修法歷程、意義，以及所面臨之問題提出建言。

### 場次三 原住民族政策

本場次由醒吾科技大學蔡中涵榮譽教授擔任主持人，加拿大渥太華大學社會學與人類學研究Scott Simon教授擔任與談人。由原民會鍾興華副主委說明台灣受到「聯合國原住民族權利宣言」影響，這10年來政府保障原住民族權利及福祉之落實與執行情形；暨南大學通識教育中心簡史朗助理教授與台灣打里摺文化協會鄧相揚秘書長則關注日本時代的理蕃政策，其中簡史朗教授比較清代與日本時代理蕃政策的變化與差異，鄧相揚秘書長則聚焦於日本時代和蕃至討蕃過程中，原住民族社會的變化。

### 第二セッション 原住民族教育

第二セッションは「原住民族教育」で、フォーラムでは毎回扱われる主題である。このセッションは東華大学民族語言伝播学科の童春發榮譽教授が務め、コメンテーターのイワン・ナウイ原住民族委員會副主任委員が所用で欠席したためコメントは代読で行われた。発表は政治大学教育学科博士候補者である李俊葳氏が、「原住民族優先論」の視点から「原住民族教育法第25条」の法修正の過程、意義、直面している問題などについて提言した。

### 第三セッション 原住民族政策

このセッションでは醒吾科技大学の蔡中涵榮譽教授が座長を、カナダのオタワ大学社会学人類学研究者のスコット・サイモン教授がコメンテーターをそれぞれ務めた。鍾興華原住民族委員會副主任委員は、台湾は「先住民族の権利に関する国連宣言」の影響を受けていることと、この10年来、政府が原住民族の権利と福祉を保障してきた状況について述べた。暨南大学通識教育センター

### 場次四 原住民族文化的傳承

最後場次的主持人為東華大學原住民族學院浦忠成院長，台灣史前文化博物館林志興副館長擔任與談人，台灣史前文化博物館陳俊男副研究員以撒奇萊雅族羅法思祭師團的個案，討論原住民族文化傳承的現況；日方學者田本はる菜博士研究員則將研究聚焦在族群間的商業網絡，進一步地探討現今原住民族文化產業的可能性；台中教育大學區域與社會發展學系鄭安晞助理教授以布農族丹社群為例，透過田野調查、歷史文獻、地圖資料、部落訪談等，試圖重繪新地圖，以呈現傳統領域之建構。

### 圓滿落幕

第11屆台日原住民族研究論壇在台日雙方熱烈的交流討論下圓滿落幕，雙方皆非常期待未來能繼續研究、合作，東華大學原住民族學院浦忠成院長更提出邀請，希望明年大會能移師花蓮，將雙方的友誼及研究成果帶回部落，為原住民族的發展繼續努力！◆

の簡史朗助理教授と台灣打里摺文化協會の鄧相揚秘書長は日本統治期の理蕃政策に注目し、簡史朗教授は清朝と日本統治期の理蕃政策の變化と相違点を比較し、鄧相揚秘書長は日本統治時代の和蕃から討蕃の過程における原住民族社會の變化に注目した。

### 第四セッション 原住民族文化の傳承

最終セッションは東華大学原住民族学院の浦忠成院長が座長を、台湾史前文化博物館の林志興副館長がコメンテーターをそれぞれ務めた。台湾史前文化博物館の陳俊男副研究員はサキザヤ族のルバス祭師団を例として台湾原住民族の文化傳承の現状について論じた。日本から参加した田本はる菜博士研究員はエスニック間の商業ネットワークに焦点を当てた研究について発表し、現在の原住民族文化產業の可能性についてさらに考察を進めた。台中教育大學区域與社會發展學科の鄭安晞助理教授は、ブヌン族のタケ・ヴァタンを例として、傳統的領域を構築すべく、フィールドワーク、史料、地図、集落でのインタビューなどに基づいて改めて地図を作成する試みを行った。

### 無事に終了

第11回日台原住民族研究フォーラムは日台双方の熱心な交流と討論をもって無事終了し、互いにこれからも研究と協力を継続することに大きな期待を寄せた。また、東華大学原住民族学院の浦忠成院長からは、双方の友情と研究成果を集落に持ち帰り、原住民族の發展のための努力を続けるために、来年は規模の大きいフォーラムを花蓮で行いたいという申し出があった。◆